

## 公表

## 事業所における自己評価総括表（児童発達支援）

○事業所名	児童発達支援・放課後デイサービス キッズホームヤマニ		
○保護者評価実施期間	令和8年2月3日	～	令和8年2月20日
○保護者評価有効回答数	対象者数：1		回答者数：1
○従業者評価実施期間	令和8年2月16日	～	令和8年2月20日
○従業者評価有効回答数	対象者数：5		回答者数：5
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年2月27日		

## ○分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	発達段階や個々のニーズに合わせて5領域ににわたり、楽しみながら成長につながる療育を行っている。	療育プログラムを通じて、子どもたちが日常生活や社会で自立できる力を育てる支援を行っている。	療育の成果や課題を評価・共有し、家庭や関係機関と連携して改善していく仕組みを強化していく。
2	子どもが居場所として安心できる環境づくりに努めている。	個々の得意や良さを見つけ支え、自尊心や自信を育てる支援姿勢が特徴である。	専門職（理学療法士、作業療法士、言語聴覚士など）と連携し、医療的・発達の補完サポート体制を充実させる。
3	少人数制によるきめ細やかな支援を行っている。	スタッフが一人ひとりと丁寧に関わることができ、細やかな心の変化まで捉えやすい体制になっている。	保護者向けの相談会や学びの場、交流機会を増やすことで、家庭での支援向上につなげていく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	個別療育の専門性の見える化が弱い。	個別支援計画はあるが、「何をどこまで伸ばすか」の具体的目標が曖昧である。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感覚統合理論を基盤とした支援</li> <li>・TEACCH構造化支援の導入</li> <li>・応用行動分析（ABA）の基本的活用</li> </ul>
2	職員間の支援統一が不十分である。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・経験年数による支援スキルに差がある。</li> <li>・声かけ対応が職員ごとに異なる。</li> <li>・ケース会議の深堀不足。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・支援統一の仕組み化</li> <li>・「困った行動対応マニュアル」を作成する。</li> <li>・毎月1回のケース検討会の実施。</li> </ul>
3	保護者支援の体系化不足	送迎時の口頭報告中心	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者支援の強化</li> <li>・保護者学習会への参加促進</li> <li>・家庭でできる支援カードの配布</li> </ul>